

【大切な名前】

子どもたちへの誕生日カードに一人ひとりの名前を書くとき、ものすごい緊張感が私を襲うことがあります。名前に込められたご両親の思い、つけていただいた名前を誇りに思っている子どもたちの気持ちがそうさせるのかもしれませんが。そういう大切な名前を簡単にさらさらと書くことはできないですし、いい加減な字を見たらきっと子どもががっかりしてしまうだろうと思います。

子どもたちは自分の名前をどんな気持ちで書いているでしょう。学校では一日何回自分の名前を書いているでしょう。何度も何度も書いている（書かされている）うちに、きれいに・丁寧に書こうとする気持ちを持ってなくなるのも分かるような気がします。それでも見事にきれいな字で毎回書くようにしている子には本当に感心します。

3年生以上の硬筆（書写）の授業を担当して何年か経ちます。「頑張ればこんなにきれいな字が書ける」という気持ちをできればみんなに持ってみたいと思っています。字を書くことに高い意識を持つことができる子は、自分の字のくせを見つけることができます。そして、もっとよくするためにどうしたらよいかを考えることができます。

今週末の作品展では、様々な展示や発表がされる中に、全校児童の硬筆（書写）の作品も展示されます。学年が上がるにつれてだんだんと変わっていく子どもたちの書く字をどうぞご覧ください。

【どこまでしていいのか？そろそろいけないのはどのあたりか？】

校長室に遊びにくる子どもたちはどんなことをしているかというと、折り紙、お絵描き、読書、そして友だちのおしゃべりを楽しむ姿も見られます。ときどき、私が紹介した遊びや物作りを楽しんでくれている子もいます。中休みは20分間、昼休みは30分間、この休み時間は子どもたちにとってとても大切な時間であることは間違いありません。

休み時間が間もなく終わろうとするとき、まさに子どもたちがそのときしていることに夢中になっているときです。私は時間を気にしながら「そろそろ片づけの時間ですよ」と言いたくなってしまいます。言った方がいいのか、子どもたちを信じて黙っていた方がいいのか、とても迷います。

「そろそろ・・・」と言われたらきっと嫌でしょうね。でも、私は子どもたちが教室に戻ったあとで、折り紙、はさみ、色鉛筆、クーピー、そして細かく切られた紙などが部屋に散乱してしまっている様子を想像してしまうのです。子どもたちに言わせれば「私たちが信用していない」ということになるのかもしれませんが。きっと子どもたちはチャイムの音と同時にさっと片づけてくれるのに、どうしてもそういう無駄・無意味(?)な声をかけてしまいます。

実はこういう声かけは他にもたくさんあるように思います。その一つとして、この小学校を作って最も印象的だった子どもへの声かけについての気づきは、毎日の始業時刻である8時20分のことでした。毎朝のように子どもたちに「時間になったから教室に入りましょう」という声かけをするのが当たり前だった頃がありました。“どうしたらそういう声かけが必要なくなるだろうか”と悩みましたが、その答えは案外簡単なところがありました。その答えは、“先生方が教室で子どもを待つ”だったのです。自分のクラスは8時20分にはきちんと朝の会が始まるという気持ちを持つことで、それまでに教室に戻って準備を済ませることはクラスの一人として当然やるべきことであると思えるようになったのでしょうか。今でも、8時15分になるとチャイムが鳴らなくても子どもたちはそれぞれの教室に向かうことができます。たまに、「少し急ぎましょう」という声をかけることはありますが、この経験から先生と子どもたちの意識の持ち方で改善できることがあることを私は教えられました。

【若者3割ゲーム2時間超】

「若者3割ゲーム2時間超」このような見出しが新聞にありました。全国の10～29歳の約33%が1日あたり2時間以上のオンラインゲームなどをしており、時間が長い人ほど、学業や仕事への悪影響や、体や心の問題が起きやすい。(神奈川新聞)

先日文科省での携帯・スマホについてのヒアリングがあったときに、同席させていただいた依存症の専門治療を行う医療機関からの発表でした。そのときのヒアリングでは、私から神奈川県内の私立小学校の携帯・スマホの所持の状況、トラブルや課題となっている具体的な事例を紹介しました。そして、私はその場で「子どもたちは、学校にいる時間は、ゲームやメール、そしてSNSなどから解放されて友だちと楽しい時間を送ることができている。」と発言しました。そのことから今大きな問題になっていることの解決のヒントは見つからないのでしょうか。